

# 災害時・要援護者に 避難タクシー導入を

## 大規模災害時 対応不足を想定し調査・研究

**Q**

大規模な災害時には町職員では手に負えないことを想定し、高齢者や避難困難者を避難所など安全な場所にタクシーで送り届けて頂く避難タクシー導入のお考えは。

**A**

広域的な災害が発生した場合、自治会組織などを含む避難支援関係機関だけでは、十分な対応ができないことも想定されますので、被害の防止及び災害の軽減を図るため避難に時間を要する高齢者や障害者などの要配慮者が自主避難するうえで、バスやタクシーなど公共交通を利用することは、速やかに安全な場所へ避難する有効的な手段として考えられますの

で、取り組み等を行っている自治体の事例を参考に調査・研究してまいります。



**Q**

9月9日、15号台風襲来時予想を遙かに超える被害がりましたが、なぜ災害対策本部を直ちに設置し災害対応しなかったのか。

**A**

東京電力の停電復旧計画が当初は早期復旧との発表で、その後、12日に発表が変更となり、停電の復旧が長期化するとの



小倉 弘 業 議員

**Q**

判断をし、災害対策本部設置となりました。

**Q**

避難所の開設はどのように場所を決めているのか、また災害の心配がなくなり、各警報や災害警戒情報などが解除されるまででも、各地区の避難指定場所に開設は出来ないのか。

**A**

地域防災計画の避難計画に定める避難所、町民会館・文化会館・町体育館・横芝敬愛高校及び各小中学校の13か所を指定しており、災害の状況により避難所として開設をいたします。

**Q**

高齢者や避難困難者など「災害時要援護者」の方々を平時から把握

しておくことは、災害時迅速な情報伝達や避難誘導につながりますが、当町の避難困難者の把握はどのように行っているのか。

**A**

「避難行動要支援者名簿」は、平成28年度に当該名簿の整備を行い、要介護状態区分・障害支援区分・家族の状況等を把握するなど、常に最新の情報に更新しております。避難困難者とされる高齢者や障害者の方を対象に、65歳に到達した方々へ登録の案内を行い、個別情報を備えております。

**Q**

当町の災害時、要援護者に対する具体的な支援計画「避難支援プラン」は。

**A**

今の時点では「支援プラン」は策定出来ていませんが、横芝光町の要支援者避難支援全体計画の中で策定することを表記しておりますので、それに基づいて避難計画を策定することを考えております。

避難所（町体育館）





宮 蘭 博 香 議員

# 災害時に町長と後援会幹部が 風呂で記念撮影

## 自衛隊に勧められて入浴をした

**Q** 温暖化等の影響により台風は大型化し、9月には想定外の大風が吹き荒れた台風15号が千葉県に上陸し、県南部地域は基

より当町も住宅や農業施設等に大きな被害を受けました。10月には台風19号が発生し、関東甲信静や東北地方に大雨をもたらし、多くの河川が氾濫するなど甚大な被害が発生しました。長く続いた停電や断水などライフラインが影響を受けた今回の状況を踏まえると千葉県は災害の少ない県だと言えなくなりまし

た。また、栗山川の流末に位置する当町としても治水対策を真剣に考えなければなりません。検証結果はどうだったのか、お伺いするものであります。併せて、災害中に自衛隊が被災者のために設置し

てくれた風呂に町長と後援会幹部と思われる人が入浴をし、写真撮影まで行っていたようですが、どのような考えで入浴していたのか、お伺いするものです。

**A** 台風15号では、猛烈な暴風による多くの被害家屋及び倒木とそれを原因とした長期停電被害をもたらしました。長期停電は今までに経験がなく、通信手段の途絶や断水、病院、高齢者施設、排水機場や農業集落排水の非常電源確保など、多くの問題が確認されました。台風19号では、

当町の中央を流れる栗山川や大総・日吉・南条地区の土砂災害に対しても今後更なる対策が必要と認識しております。また、風呂の件については、自衛隊から勧められたので入浴をいたしました。

**Q** 栗山川の水は、農業用水として東金市、茂原市などの九十九里平野南部までの受益面積約2万

haに供給しています。また、水資源機構の導水路として、京葉工業地帯への工業用水と九十九里平野南部から南房総にかけての水道水の供給を行っています。栗山川の氾濫を防ぐためにも成田空港の更なる機能強化に係る要望書を提出して

いますが、空港南側の災害防止策として、栗山川の支川である高谷川を含めた早期の河川改修とスーパード堤防の設置を強く要望する必要があると思います。町長のお考えをお伺いします。

**A** 町としては、浸水被害の防止に向け、事業の早期完成をお願いしているところですが、流域自治体と連携し、千葉県に対し更に整備促進を要望していきます。



▲いろいろな用途に使われる栗山川

業の早期完成をお願いしているところですが、流域自治体と連携し、千葉県に対し更に整備促進を要望していきます。

### ※その他の質問

- ・ 停電及び断水が発生した場合、どのような対策を講じていくのか。
- ・ ハザードマップの見直しは行うのか。
- ・ 町民への情報伝達の更なる有効な方法は、考えているのか。
- ・ 避難所の開設はどのような基準により、どこを開放するのか。
- ・ 生活弱者の避難誘導はどのようにするのか。
- ・ 台風ごみの対応は、どのように考えているのか。
- ・ 被災者（住宅・農業施設等）への財政支援は、どのくらいの範囲でどのような支援を考えているのか。
- ・ 災害時の東陽病院の対応は、どのように考えているのか。
- ・ 復旧及び復興対策は、どのように考えているのか。

一般質問

# 成田空港諸問題、治水対策は

## 早期の対策実施に向けて要望を重ねる



秋鹿 幹夫 議員

**Q** 成田空港の排水機能について、栗山川及び高谷川の治水対策の進捗は。

**A** 2級河川栗山川は高谷川などが合流し、太平洋に注ぐ流域面積が県下第2位の284.5平方キロメートルで、指定延長33.7キロメートルの九十九里河川の中では最大の河川で、千葉県が管理しております。栗山川の浸水被害を軽減するため、広域河川改修事業により河口から多古町飯土井橋までの17.2キロメートル区間で改修を進めており、銚子連絡道路地点までの8.1キロメートル区間において、用地交渉が難航している一部を除

き、堤防整備や橋梁等の改築が完了しております。



▲栗山川と高谷川の合流地点

**Q** 栗山川の治水対策を、C滑走路建設前に行うように働きかける考えは。

**A** 平成30年9月議会定例会において、秋鹿幹夫議員の一般質問に答弁

させていただきましたとおり、C滑走路の雨水排水は、

高谷川を經由して栗山川へ排出される計画となっております。計画では排出量の抑制措置が講じられるとはいえ、今年のような異常な降水量を今後は想定せざるをえないこと、今後、空港敷地の周辺で開発が予想されること、また、排水先の栗山川に未改修区間があることなどから、栗山川の治水への影響が懸念されます。

そのため、可能な限り早期の栗山川の河川改修等の治水対策について、昨年1月、町議会のご協力をいただき、直接千葉県知事へ議長と私の連名で要望を行ったのを始め、機会のあるごとに要望を行ってきています。直近では、11月19日の「副知

事・部局長等と市町村長との意見交換会」でも私より発言をしております。今後早期の対策実施に向けて強く要望を重ねてまいります。

**Q** 町民団体「航空機騒音から生活を守る会」から10月25日にNAAへ提出された要望書の内容についての町長の所見は

**A** 11月6日、「航空機騒音から生活を守る会」の皆様が役場を訪問され、10月25日、成田国際空港株式会社にて、要望書の提出をされたとのこと報告をいただきました。その内容については、1点目として、住民と納得しあえる話し合いを進めていただきました

い。2点目として、A滑走路の夜間飛行制限緩和前の飛行時間の順守。3点目として、騒音区域（線引き）の見直し。4点目として、栗山川・高谷川の治水対策。5点目として、住民への被害補償であったと承知しております。この要望に対する私の所見ですが、2点目の航空機運航時間に関する要望など、昨年3月の「成田空港に関する四者協議会」の合意内容に沿わない要望があるものの、今後の航空機騒音や環境対策への不安に対する皆様のご意見として、真摯に受け止めさせていただきます。と考



▲成田国際空港



森川 貴恵 議員

# 投票率向上のために 小中学校での主権者教育の充実を

## 将来、児童生徒たちが有権者としての権利を円滑に行使できるよう支援に努める

**Q** 緊急時の戸別受信機の貸し出しは

**A** 横芝光町分担金条例に基づく利用者負担金を徴収していることから行っていないことから行っておりません。

**Q** 避難所設置の際高齢者・障がい者等の利用への対応は

**A** 避難に時間を要する方は、早めの避難行動を心がけていただくように周知してまいります。特別な配慮が必要な方に対応するため配慮者用の部屋を設けたり、福祉避難所として協定を締結している福祉施設へ移送するケースがありました。今後も、福祉避難所の開設と運営は重要であると考えています。

**Q** 小中学校での防災教育の現状は

**A** 各学年に応じた取り組みや学習

指導を通じて、自然災害から身を守る能力や災害からの復興を成し遂げる能力、進んで他の人たちや地域の安全を支える能力など「生きる力」の育成に努めていきます。



**Q** 投票率向上のための具体的取り組みは

**A** 入場券や町ホームページにおいて、期日前投票や滞在地、病院及び施設での不在者投票など投票制度の周知をしています。

小中学校には選挙ポスター、標語の作成を、園児にはぬりえを配布し、投票に関する啓発をしています。

**Q** 小中学校での主権者教育の中での位置づけは

**A** 児童生徒の発達段階に応じて、政治や選挙への関心が高まるよう指導するほか、特別活動においても学校生活の課題を解決する話し合い活動を行うなど、学校教育全体で主権者として必要な資質の育成に努めています。

**Q** 坂田池運動公園運動広場でのドッグコンテストの詳細は

**A** JKC（日本ケンネルカレッジ）千葉東

ドッグリゾートクラブが主催となり、優秀な純粋犬の普及と飼い主の繁殖・飼育

指導の奨励を行い、動物愛護及び管理に関する法律を遵守し、広く動物愛護の精神を育てていくことを目的とした展覧会で、11月2日から4日まで、来場者千人を見込み、全国から予定頭数400頭を募集して海外から審査委員を招き、優秀な犬を選出するもので、大盛況であったと伺っています。終了後、タイヤ痕や犬の毛や臭いについて意見がありました。主権責任者へ連絡をし、主権責任者が処理を行うということで確認しています。



一般質問

# 新たにほ場整備事業が計画されている 地区と事業推進の進捗状況は

## 基盤整備事業準備委員会の設立に向け 事業推進に尽力していく



鈴木和彦 議員

**Q** 当町を含む農村では、町と言われています。その農家の高齢化による後継者不足や耕作放棄地の増加など深刻な問題が生じています。ほ場整備は、水田やその周辺の整備を総合的に実施することで大型機械導入による生産効率の向上や農地の集積を図り、地域農業の担い手を育てることを目的として実施されています。篠本新井地区では、農地の大区画化と集落営農が進められ、最新の技術と地域の結束が評価され、全国各地から視察団が訪れるほどの営農地区に成長しました。先に完成した北清水地区を参考に水田の乾田化を図り、転作作物の麦大豆生産は、千葉県を代表する

一方、町内には未だ小さなほ場、すれ違いの出来な農道、用排水が兼用されている水路のまま将来を不安に思う農家も多く存在しています。そこで、現在計画されているほ場整備事業の予定地区、計画推進の進捗状況について伺います。

高い地区であります。町としては、地域農業の問題点や将来像を皆さんで話し合うことで事業実施に必須となる「人・農地プラン」の見直しを進め、今後の営

農方針を決めていただくこととしています。また、今年度は千葉県により南条地区支線地区内のおよそ100ヘクタールを対象として基礎調査を実施することと

**A** 平成30年度に基盤整備事業実施に係る地元説明会を、両総土地改良区管内である南条支線地区内の9地区で行いました。この地区は、以前より基盤整備事業の声が上がっており、両総土地改良区が実施した基盤整備事業に係るアンケート調査でも事業要望

が非常に高い地区であります。町としては、地域農業の問題点や将来像を皆さんで話し合うことで事業実施に必須となる「人・農地プラン」の見直しを進め、今後の営

農方針を決めていただくこととしています。また、今年度は千葉県により南条地区支線地区内のおよそ100ヘクタールを対象として基礎調査を実施することと



▶北清水ほ場（大豆）

**Q** 関係土地改良区による事業推進が行われているようですが、どこ

も積極的な姿勢を前面に出し、基盤整備担当と農政担当が連携して推進に当たっていただくよう要望します。

の地区でも基盤整備は賛成。しかし、営農面の不安が同僚を遅らせ、反対を招く要因と言われています。営農指導も当初からしっかりと行わなければ、早期の事業採択にはならないと思われませんが、どのように考えていますか。また、南条管内とのことですが、地区と面積を教えてください。

**A** 両総南条支線地域は、13地区、約350ヘクタールが両総土地改良南条支線の受益となっております。基盤整備事業の採択に向けては、地元地域や千葉県、農協、関係土地改良区と基盤整備導入後の営農計画なども含めた話し合いを行いながら、事業の推進を図ってまいりたいと考えております。

町も積極的な姿勢を前面に出し、基盤整備担当と農政担当が連携して推進に当たっていただくよう要望します。



川島 富士子 議員

# 高齢ドライバーを支える 安全装置補助制度の導入を

## 安全装置及び制度を見極め 対策を進める

**Q** 高齢ドライバーを支える後付け安全装置の普及および補助制度の導入を

**A** 高齢者ドライバーの事故は大変多く、この対策は重要な課題と認識しております。当町のように公共交通機関の少ない地域では、日常生活を考えたときに、なかなか運転免許証を返納することができない状況でもあり、今後、安全装置及び制度を見極め、高齢者ドライバーの事故対策を進めてまいります。

**Q** 骨髄ドナー助成制度の導入は

**A** 千葉県では、骨髄等を提供したドナー本人やそのドナーに骨髄移植時の入院等のためドナー休暇を付与した事業所へ市町村が助成した場合に、その2分の1を補助する助成制度が制定されており、町も令和2年度に導入を図るべく所

**Q** 要の準備を今年度中に進めてまいります。

**A** 野良猫の繁殖を防ぐために、地域住民が主体となって実施する「地域猫活動」に対して、千葉県では町と併せて助成する補助金交付事業を、今年度より開始しました。今後、調査研究を行ってまいります。

**Q** 種類の発電設備があります。常設型は、発電時に必要最低限の窓口業務を行うためのコンピュータシステム及び外線電話用と緊急放送のための防災行政無線及びJアラート用です。仮設型は、主に災害対策本部照明用と災害備蓄品倉庫としての北側車庫棟照明用です。台風15号による停電は、従来の停電の常識や対策が通じない想定外の経験となりましたので、今後は、庁舎や指定避難所等に順次、発電機や非常用照明器具の配備数を増やすなど、長期の停電にも対応できるよう対策を講じてまいります。

**A** 現在、役場庁舎には、停電発生時に自動で始動する常設型と専用の分電盤に発電機を接続して手動で始動させる仮設型の2



**Q** 自前の発電設備の現状および導入は

**A** 現在、役場庁舎には、停電発生時に自動で始動する常設型と専用の分電盤に発電機を接続して手動で始動させる仮設型の2

**Q** 乳児液体ミルクの災害備蓄を

**A** 乳児用液体ミルクは、開封してそのまま乳児に飲ませることができるところから、災害用備蓄品として導入してまいります。



※その他の質問  
○安全で安心なまちづくりとして、地域防災力の向上と災害対応に伴う見直しについて

- ・ 地区防災計画策定に伴う防災タウンミーティングの開催を
- ・ 地域防災を担う人材育成として、今こそ、防災士の補助制度を拡充すべきでは
- ・ 防災意識を高め、誰もが避難所を開設できるようにハンドブックの作成を
- ・ 広域避難所である学校体育館にエアコン設置を
- ・ SNSを活用した取り組みは
- ・ 住宅リフォーム補助金の拡充および危険なブロック塀の除去における活用を
- ・ 避難所に授乳室や着替えの場所の設置は
- ・ 給水に伴うサービスを避難所での対応は
- ・ 要支援者等への対応は

一般質問

# 台風15号による農業被害の 支援対策と窓口対応は

## 事業再開に向けた取り組みを 着実に支援



山崎 義 貞 議員

**Q** 台風によるビニールハウスなど、農業施設や農作物被害は甚大です。町農業を牽引してきた農家やこれからの農業後継者に対して、きめ細かな相談対応が必要ではないか。

**A** 台風被害を受けた農業者への早急な経営



▶倒壊したビニールハウス

再建を支援するため、農業の再生産に必要な資金や、施設の復旧に必要な資金を、実質的に無利子で融資する農業災害対策資金補助事業を実施いたします。また、被災した農業ハウスなどの復旧及び撤去に要する経費に対し、国の支援に加えて県と町で上乘せ支援すること、農業者負担が事業費の10%程度になる、被災農業者支援事業を実施します。現在も要望を受け付けており、今後も被災した農業者の皆様に寄り添った窓口対応に努め、事業再開に向けた取り組みを着実に実施してまいります。



▲捕獲されたイノシシ

**Q** 野生イノシシの目撃情報が寄せられてきている。早期の駆除を行い、被害防止に努めるべきではないか。

**A** 農業被害・人身被害を防止するために、猟友会、町環境防災課と連携しながら、箱わな等の設置を行っていきます。

**Q** 介護利用料の町独自の減免制度はありません。必要な介護が受けられるよう制度の拡充を求めます。

**A** 介護保険施行規則の規定により減免を受けようとする被保険者は、申請することができます。また、台風15号・19号においては、被害の状況を鑑み、利用等の免除等に係る特別対策として、国より保険者の判断で全額免除することができるとされ、それに対応するための要綱を制定し、利用者負担の減免について対応しているところです。

**Q** 災害時の情報提供に  
なくてはならないの

が防災無線の戸別受信機です。設置希望者には費用負担なしで設置できるように求めるのですが。

**A** 横芝光町分担金条例に基づき、5千円の負担金を徴収し設置させていただいております。町では、災害時の情報発信を多角的に行っておりますが、町からの重要な情報が発信される防災行政無線は、ぜひ家庭に設置していただきたく、今後も設置啓発活動を行ってまいりたいと考えています。



▶防災行政無線戸別受信機